

'75年モスクワ国際映画祭金賞受賞
アンジェイ・ワイダ監督作品

街が、国が、時代が燃えた！
19世紀末、時代の爛熟と崩壊の中で
若ものは、人々は、どう生きたか
巨匠アンジェイ・ワイダが再び放つ華麗なロマン。

約束の土地

Andrzej Wajda "Ziemia Obiecana"

ダニエル・オルアフリスキ、ヴォイチェフ・ブシヨニャク

タデウシュ・ピアウォシチニスキ

カラー作品 ホーランド映画

アンジェイ・セウエリン/アンナ・ネフレツカ

撮影 ウィルト・ソホチニスキ

フランチシエク・ヒェチカ

ホジエナ・ディキエル

エドワルト・クウォシンスキ、ヴァツワフ・ディボフスキ

美術 タデウシュ・コサレヴィツキ

音楽 ヴォイチェフ・キラル (原作ウワディスワフ・レイモント (ノーベル賞受賞作家))

製作フィルム・ユニット "X" 日本ヘラルド映画



ANDRZEJ WAJDA
ZIEMIA OBIECANA



アンジェイ・ワイダ監督作品

約束の土地

'75モスクワ国際映画祭金賞受賞

ノーベル賞受賞作家ヴワディスワフ・レイモント原作
カラー作品・ポーランド映画/日本ヘラルド映画



「大理石の男」アンジェイ・ワイダ監督の壮大なロマン。

1981年度、カンヌ国際映画祭のグランプリはポーランドのアンジェイ・ワイダ監督作品「鉄の男」の頭上に輝いた。ポーランド人と、ポーランドという国の有り様を執拗に追いつづけた監督の、この新作は揺れるいまのポーランドを鋭くえぐった問題作と言われるが、この「約束の土地」は、やはりそうしたテーマをもとに、19世紀末のポーランドを描いた傑作である。



世紀末、ポーランドという国は国をもたない、流浪の民だった。国はロシア、オーストリア、プロイセンと三国によって分割され、工場や土地の多くは彼らの持ちものだった。その時代、ポーランド人は何を考え、どう行動し、青年は何を求めたか。

ワイダ監督は、ポーランド中部のウツジという小さな工業都市を舞台として、混乱と無秩序の時代に野心をもった青年が、抜け目ないユダヤ人やドイツ人を向うにまわして、いかに自分の夢を実現させていくか、そしてその夢の代償は何だったかというを描いている。その描き方はダイナミックであり、そして抒情的であり、アンジェイ・ワイダその人の力備のすべてを出し切った演出である。原作は、ポーランド人の作家、ヴワディスワフ・レイモント。彼は1924年



に「農民」という大河小説でノーベル賞を受賞しているが、この原作「約束の土地」は、実際にレイモントが、ウツジという町に住みこんで、人々の生活の実態をつぶさに観察して書きあげたものだという。彼が、ポーランドのゾラと呼ばれるゆえんである。出演は主役のカロルにダニエル・オルプリフスキ。ワイダ作品には必ず顔を出すポーランド期待の俳優で、最近ではフランス映画などにも顔を出す国際スターである。他にヴォイチェフ・ブシヨニヤック、アンナ・ネフレベツカなど。スタッフは「大理石の男」の撮影を担当したエドワード・クウォシンスキが再びカメラを廻している。

1975年、モスクワ映画祭で金賞を受賞した文芸大作。

物語

時は19世紀末、ポーランドのウツジは、繊維工場の林立する活気ある町だった。ヨーロッパ中が新しい時代の胎動に揺れるその波はこのウツジにも押し寄せていた。この町の3人の青年、カロル、モリツ、マックスは親友だった。彼らは共同出資して、彼ら自身の繊維工場を持つと思っていた。

カロルはポーランド人で没落士族の息子、モリツはユダヤ人、マックスはドイツ人で繊維工場の息子だった。彼らの第一の問題は資金だった。3人はそれぞれ資金繰りに奮走する。カロルは父親に



土地を売らせた。モリツは町の繊維工場の経営者となり引して金を出させた。マックスは父から金を引出した。やがて3人はこの金をもとに、土地を買い工場を建てていくのだが、行手にはたくさんの障害があった。はたして、新しい時代、資本主義勃興の時代に、3人はいかなる夢を実現しようののだろうか。

アンジェイ・ワイダ監督フィルムグラフィ

- 一九五四年 『世代』 (『』は日本未公開作品)
- 一九五五年 『私は太陽に向かって歩む』(短編)
- 一九五七年 『地下水道』カンヌ国際映画祭審査員特別賞受賞
- 一九五八年 『灰とダイヤモンド』 国際映画批評家連盟賞(ベネチア)一九五九
- 一九五九年 『ロトナ』
- 一九六一年 『夜の終りに』
- 一九六二年 『サムソン』
- 一九六二年 『シベリアのマクベス夫人』
- 一九六二年 『二十歳の恋』(ワルシャワ編)
- 一九六五年 『灰』
- 一九六七年 『天国への門』
- 一九六八年 『捲きアディング』(テレビ映画)
- 一九六九年 『すべて売り物』
- 一九六九年 『すべて売り物』
- 一九七〇年 『戦間期のあとの風景』
- 一九七〇年 『白樺の林』
- 一九七二年 『ピラトと他の人たち』
- 一九七二年 『婚礼』
- 一九七四年 『約束の土地』
- 一九七六年 『影なき境』
- 一九七七年 『大理石の男』
- 一九七七年 (日本)80年度芸術祭大賞受賞
- 一九七八年 『麻酔なし』
- 一九七九年 『ヴィルコの娘たち』
- 一九八〇年 『ザ・コンタクター』
- 一九八一年 『鉄の男』

'81カンヌ国際映画祭グランプリ受賞

8月8日(土)より
エキブ・ド・シネマ7周年記念
夏休みロードショー

●地下鉄(都営三田線・新宿線)神保町・下車 国電(中央線)水道橋またはお茶の水駅・下車 ●神保町交差点

岩波ホール (262) 5252

東京音協9月例会作品 ¥1050発売中! (会員に限り)
(当日は一般・学生とも1500円)

●岩波ホールチケット・ガイド(ビル1階)のほか都内各プレイガイドにて好評発売中!
●団体のお申込み・お問合せは梅メジャー(541)2508へ。

平日(月～金)	1:30	6:30	上映時間
土・日・祝	11:30	3:00	6:30

●上映替え制・自由定員制